

沖縄国際大学 平成 29 度 F D 支援プログラム成果報告書

下記内容により、F D 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「F D 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	上原 千登勢	印	所属・職名	産業情報学科・講師
プログラム名称	英語関連教科における「クリティカルシンキング」の導入に向けての調査・指導力強化- 本学生をより能動的な学生に育てるために（応用編）			
実施及び成果の要旨	<p>主に「国際理解課題研究 I」の授業で、クリティカルシンキングを取り入れたトピック・アクティビティを試みた結果、以下の結果が得られた。</p> <p>【トピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界で一番幸せな国は？</li> <li>● 世界の教育について</li> <li>● 世界の労働・働き方について</li> <li>● 「日本人らしさ」とは？（アイデンティティとは？）</li> <li>● 「差別」とは？</li> </ul> <p>【アクティビティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ペアワーク・グループワーク</li> <li>● ディベート（日本語）</li> <li>● プレゼンテーション（英語）</li> </ul> <p>◎：大いに効果が得られた ○：ある程度効果が得られた △：効果が得られたか不明 ×：効果が得られなかった</p> <p>1. 受け身でなく、自ら進んで学習し、課題に取り組むことができる。(○) 2. 論理的な物の見方、考え方を意識するようになる。(◎) 3. 自身の物の見方、考え方を客観的に見るようになる。(○) 4. 自身のものの見方、考え方の根拠を述べ、理由付けができるようになる。(○) 5. (英語などの) 言語と物の見方、考え方の関係性について理解できるようになる。(○) 6. 日本や沖縄だけでなく、より広いグローバルな社会を知り、異文化について理解できるようになる。(◎)</p>			
実施期間	<p>自： 2017 年 4 月 16 日</p> <p>至： 2018 年 3 月 30 日</p>			

※共同実施者（2人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

<p>目 的</p>	<p>2016年度の「英語関連教科におけるアクティブラーニングの導入に向けての視察・調査・本学生をより能動的な学習者に育てるために」のプログラムにおいて、アクティブラーニングについての基礎知識を身につけ、授業に導入することができた。</p> <p>その応用として、今年度より担当することになった「国際理解課題研究Ⅰ」向けに授業に新たな要素が必要になると考え、アクティブラーニングはもちろん、更に高度な「Critical Thinking (クリティカルシンキング)」を導入し、学生の自立とこれからのグローバル社会に対応できる人材育成を目指すことを目的とした。</p>
<p>活 動 内 容</p>	<p>「クリティカルシンキング」とは何か、具体的にどのように指導すれば良いのか、基礎的知識と授業導入のため、「グローバル流考える教員育成講座」を受講した。</p> <p>課題を通して、自身の考え方、課題へのアプローチ方法などを改めて気づくことができた。更にいかに授業に取り入れるか、学生向けにアレンジするかを常に念頭におき、可能な限り授業でも実践した。</p>
<p>成果・結果・効果</p>	<p>教員：</p> <p>授業の中で目的やゴールがより明確に見えるようになった。</p> <p>トピックやアクティビティを考える際、アプローチやプロセスのステップをより細かく準備するようになった。</p> <p>色々な視点や考え方、アプローチの提案ができるようになった。</p> <p>学生</p> <p>授業の目的やゴールを理解し、授業に取り組むことが増えた。</p> <p>トピックやアクティビティを掘り下げ、より理解をすることが増え、異なる視点や考え方、アプローチがあることに気づいた。</p> <p>沖縄だけでなく、日本全体や世界に目を向けることができるようになった。</p>
<p>今 後 の 展 望</p>	<p>今年初めて「国際理解課題研究」の授業を担当したので学生のレベルや、求めているものが曖昧であった。学生の好奇心を引き出し、学生自ら学びの場を広げ物事に関心をもつこと、また、人前で自分の意見を述べることに対する不安を取り除くためにはどうしたら良いか、段階的に指導する必要があると感じた。</p> <p>クリティカルシンキングをとほ別に、英語でものごとを考えたり、発言・発表することが学生にとっては困難であると感じた。これは英語力の問題と、単に慣れの問題の両方あると思うので、今後も学生が負担に感じないトピックを選び、アクティビティやタスクの指導を行いたい。</p> <p>一方で「クリティカルシンキング」を導入するまではあまり根拠を示すことなく、「何となく」物事を捉えていた学生が、少しずつ、理的なものを見方を意識し、共通点や相違点に気づくようになった気がする。今後も「クリティカルシンキング」のアプローチを活かし異文化理解を深め、グローバルに物事を捉えることのできる人材を育成するよう努めたい。</p>